

令和5年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

昭和北中学校区 校番22 学校名 呉市立昭和西小学校

| 評価項目 | ※評価 | 理由・意見 |
|----------------|-----|--|
| 目標、指標の設定の適切さ | A | 現状から適切に目標を設定し、指標も設定している。 |
| 目標達成のための方策の適切さ | A | 前年度を踏まえ、新たな方策をそれぞれの重点目標に対して設定している。 学力では、ICTの活用、授業実践交流。豊かな心ではペア学年を同じ階にする。健やかな体では、宿題に柔軟運動を取り入れる。これらの新たな取組に期待できる。 |
| 自己評価の結果と分析の適切さ | B | 教員の欠員があるという現状から、マンパワー不足の影響が大きく結果に表れており、早期に適切な人員配置が行われることが望まれる。 成果が上がっていないものについては、児童との関わり、声掛けの不足と分析しており、一人一人の教員の多忙さが表面化してしまっている。 |
| 今後の改善策(案)の適切さ | A | ICTの活用による児童の基礎学力の定着、くれチャレンジマッチへの取組による体力の向上、マイタイムラインによる避難行動等、改善に取り組んでいる。 取組が明確ではあるが、人員不足の中、すべてやりきることは難し そうなので、取捨選択をし、教員の負担の軽減もしていかなければ ならない。 |
| その他 | | 「時間の確保」「聴く(傾聴)姿勢を大切に」「お互いのよいところを褒め合う場」「見える化で意欲を促す」「家庭で話す機会を作る」の改善策には、コミュニケーションの場の設定が取組の中心である。人手や時間の確保が困難な状況ではあるが、児童にとって関わることは、とても大切なことなので、子どもが集中して楽しくがんばることができるよう取組を継続してほしい。 |

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

| | |
|--------------------|--|
| 学校関係者評価を受けての今後の改善策 | 現状に合わせた取組や実践を組織的かつ、計画的に進め、今後も継続していく。 自己評価達成値が目標値より低かった項目だけでなく、各部で検討した改善に向けての取組を推進、定期的実施状況を確認し、更なる改善につなげていく。 |
|--------------------|--|